

# 本とひとを結ぶ学校図書館

～本に親しむ・たくさん読む～

広島県立油木高等学校

昨年度は、「目的に応じて読む／本から学び自らの考えを深める」というテーマに沿って、「総合的な学習」を中心に本校の取組を報告した。今年度は「本に親しむ／たくさん読む」ことに関わる図書館教育活動を紹介する。

	図書館での活動	生徒の状況
<b>オリエンテーションⅡ本に親しむスタート</b>	<p>入学後、できるだけ早い時期に主幹図書教諭が各クラス1時間の図書館オリエンテーションを実施し、図書館利用の基礎的知識(NDC・マナー・貸出返却方法など)を身に付けさせ、積極的に活用する意識を持たせる。</p> <p>今年度は4月13日(月)3限1年A組, 4限1年B組の図書館オリエンテーションを行った。図書館の利用の仕方や、NDC(日本十進分類法)について学習し、翌日からの朝の読書に備えて各自1冊以上本を選んで借りるよう指導した。「中学校までラベルの数字=NDCの意味が分からなかったけれど、はじめて理解できた」という1年生も多かったようだ。大きな本の模型(発泡スチロールボード製)を使った説明は分かりやすかったと好評だった。</p> <p>同じ質問項目で事後アンケートを実施し、継続して統計を蓄積している。チェック方式で回答する、中学校での図書館利用や読書に対する意識など、自由記述で回答するオリエンテーションや館内の印象、要望などを、選書や図書館運営の参考にしている。またすべてのデータを新入生のクラス担任にも渡し、生徒把握の一助としていただいている。</p>	<p>アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館にある本や図書館でのマナーがよくわかりました。中学校の図書館司書の方と雰囲気似ていて親しみやすいです。</li> <li>●分かりやすくてかい本を使って説明して下さったのですごく良かった。本がいっぱいあるので飽きそうにないと思った。</li> <li>●本の背など本にも部分ごとに名前があることを初めて知った。</li> <li>●図書館の先生は優しそう。分かりやすいいろんな今ごろの本があるのでよかったです。</li> <li>●図書館の内を見ることができた。多くの種類の本があり自分が好きな本を見付けられそうだった。もっと多くの本を入れてほしい。シリーズで発行されている本があるが、ない箇所があったためその本を入れてほしい。</li> <li>●『心を上手に透視する方法』を入れていただきたい。海外ドイツとかイギリスとかアメリカとかの作者も入れていただきたい。速読も入れていただきたい。</li> <li>●先生がとても明るい印象だったので図書館に楽しく来られる。又いろいろな種類の本があって読むのが楽しみです。</li> </ul>

0% 20% 40% 60% 80% 100%



上段: 図書館オリエンテーション 下段: 手作り大型本模型 オリエンテーションで伝えたいことを大きな字でカラフルに書き込んだ



	図書館での活動	生徒の状況
<b>読書指導</b> <b>連携した</b> <b>国語科と</b>	夏休み感想文課題(神石高原町読書感想文コンクールや福山大学主催「友だちにすすめたい本」コンクールへの応募)のため、1時間図書館で読書相談に応じ、感想文の指導を行う。夏休み中の利用の仕方や感想文を書くヒントを話す。事前に手に取りやすい小説や身近なテーマの新書、話題の本などを選んで机上に並べておく。出版社の販売促進用紹介冊子も配布する。	感想文が苦手という生徒は多い。なかなか提出ができずに、2学期になって切羽詰まった顔で来館・相談する生徒もいる。 まず本を選んで借りるところまでの図書館利用はできているが、静かに考えを深め感想文を書く場としても活用を促したい。
<b>読書週間</b>    全校で「読書」を意識する期間	<b>「読書マラソン」</b> 約1ヶ月の間に何ページ読んだか記録して、たくさん読んだ生徒を表彰している。記録ノートは読書開始日終了日、署名・著者名・出版社、評価(★いくつ)ひと一言感想、ページ数、ページ数累積数を書くようにしている。1冊に付き30冊分書き込めるが、複数のノートを提出する生徒もいる。「朝の読書」に準じてマンガや雑誌はカウントしない。途中でやめた本も読んだ分だけはカウントできる。 <b>「Book Portrait」の展示</b> 昨年度、テレビ番組をもじったタイトルで先生方に「あなたの人生で大切な10冊の本を教えてください」とお願いをした。「人生で初めて出会った本は?」「小学生のあなたを夢中にさせた本は?」といった問いに答え、その頃の写真も提供していただき、1枚のボードにコラージュ風に仕上げた。 <b>「友だちにすすめたい本」冊子配布</b> 国語科の夏休み課題・2年生の福山大学主催「友だちにすすめたい本」コンクールへの応募作品を冊子にまとめ全校生徒教職員に配布している。コンクールの趣旨に賛同したのと、やはり友だちが勧めてくれた本なら読んでみたいという生徒の心情に期待したからだ。「本に親しむ」「たくさん読む」のどちらにもつながるこの活動は、前任者より引き継いだ。	<b>生徒の状況</b> 30冊ほど作成した「Runner's High」(読書マラソン記録ノート)はほぼ期間中になくなるほど、参加する生徒は多いが、提出=ゴールに到達する生徒は15~20名である。1万ページをこえる生徒もいる。賞品は図書券や文房具など、校内で協力していただくが、図書委員がどの賞品を何位の生徒に渡すか、福袋を作るように楽しんで選んでいる。 「Book Portrait」の展示は大好評だった。連携型中高一貫校として町内2中学校にも出前掲示をした。本と生徒と教職員とをつなぐ、高校と中学校とをつなぐ、予想以上に楽しいイベントになった。新しいボードが仕上がるたびに待ちかねていた生徒が集まって楽しそうに見ていた。「次はどの先生の『Book Portrait』ができるの?」「早く見たい」と声が後押しをしてくれた。しかし、先生方の写真の方が興味を引いていたようで、直接的に読書に結び付いたとまでは言えない。来館の動機付けにはなったようである。



「友だちにすすめたい本」コンクール応募生徒作品 「喜び、悲しみ」 2年生女子  
 (金子みすゞ童謡集「わたしと小鳥とすずと」 金子みすゞ JULA出版)

「まるで私も小さな女の子になったみたい。」この本を読んでいて、私はそう感じました。野に咲く花も、それを育てる土も太陽も。青々と広がる空も。その一つ一つに感動を覚え心を動かす「わたし」の様子に、私も胸が躍りました。悲しければ「悲しい」と、楽しければ「楽しい」と、素直に感情を表現する「わたし」はとても純粋で、素敵な女の子です。今の私が忘れかけていた、命のありがたさを思い出させてくれた作品でもあります。収録されている童謡の言葉は、どれも幼くてやわらかいのですが、生きるということや、命についても触れられており、とても考えさせられるものがあります。

金子みすゞといえば、この作品の大きなタイトルになっている「わたしと小鳥とすずと」が大変有名ですが、収録されている他の童謡もそれに負けない位素敵な作品です。仄かに感じる喜びと悲しみと、金子みすゞの奥深さを、皆さんも是非読んで感じてみてください。

Book Portrait の館内展示



ひとりひとり違ったデザイン

館内にも並べて展示

新しいのが出た! さっそく集まる生徒

図書委員も作りました

	図書館での活動	生徒の状況
<p style="writing-mode: vertical-rl;">図書委員会活動Ⅱ生徒がつなぐ本と人</p>	<p>カウンター当番／読書週間・読書マラソン参加・冊子作り／学園祭への参加／蔵書点検</p> <p><b>学園祭「走れ！移動図書館」応援プロジェクト</b></p> <p>図書委員会で「走れ！移動図書館」の活動について学習してそれぞれ感想文を書く。掲示物作り・しおり作り・ムービー作り古本寄付のお願いをする。「古本市場」を開いて、移動図書館車の活動紹介と売り上げ金の寄付をする。</p>   <p><b>読書週間ディスプレイ</b></p> <p>落ち葉とまつぼっくりに囲まれて豆本を読む生徒による手作りぬいぐるみのリスやオススメ本POPで図書委員が本の楽しさをアピールした。</p> 	<p>図書委員は各クラス2～5名で、委員になった生徒に、次年度も継続するよう伝えている。</p> <p><b>図書委員のメッセージ【模造紙で掲示】</b></p> <p>私は今までこの「走れ！移動図書館」のことを知りませんでした。もしも「本」がなくなったら……私は絶望するでしょう。考えるだけでもおそろしい……。おそらくこのような気分になる人は少なくないのではないのでしょうか。だから、この「走れ！移動図書館」というのは東北の人たちにとってとても大きな存在なのではないのでしょうか。この活動をこれからも頑張ってもらいたいと思います。(3年女子)</p> <p>移動図書館車は本を読みたい人達の願いがつまった車だと思った。いま、自分の生活から本が消えてしまったら趣味や好きな作家の本が読めなくなって寂しいと思う。自分たちの寄付金で東北の人達に少しでも多くの本を読んでもらいたいです。私もこのような震災の支援に関わることがあれば少しでも支援していきたいです。(1年女子)</p>
	    <p>みんなでワイワイ値段付け    移動図書館車の紹介掲示と古本並べ    寄せ書き看板    たくさんのお客様が来場</p>	
<p><b>発信 新鮮な情報 掲示・展示Ⅱ</b></p>	<p>入口には生徒に人気の映画情報と原作本コーナー、その横に特集コーナーを設けて、「楽しそうだから入ってみよう」と感じられるようにしている。講演会があれば関連著作を並べ、図書館に関わるテーマが注目されていれば、新聞数紙の切り抜きを張り出している。</p>     <p>「はだしのゲン」閲覧制限の掲示    入口の映画チラシコーナー    為末大さん講演の前後は著作を展示    新鮮なテーマでの特集</p>	<p>「あ、新しくなった」と掲示物を見入る生徒は、「先生、ずっとおなじだよ」と指摘もしてくれる。映画情報は楽しみにしており、これだけを見に友だちと図書館に来る生徒も多い。職員室の向かいという好立地は掲示物や特集コーナーの効果をグンと高めてくれている。</p>

「本に親しむ」とはどういうことだろうか。何か知りたい、見たい、あるいは笑いたい、泣きたいと、心が何かを求めたときに「そうだ、本を読もう」と自然に本を手取る事、本がないと寂しいと感じること、いま読みかけの本がカバンに入っていること……本によってより良く生きることではないだろうか。

学校図書館は学校に必置の施設設備であるが、本に親しむ場として機能するには「図書館施設」「図書館資料」「図書館職員」の三要素がそろっていることが必要である。十分な環境整備という土台があってはじめて教職員からの読書への誘いも奏功する。機会を捉えて学校全体の意識を高め、生徒・教職員が「本に親しむ」「たくさん読む」ための場として、学校図書館を充実させていきたい。